

ステークホルダーの皆さまとKKEをつなぐ

K K E : P R E S S

58期

2016年6月期 (2015年7月1日~2016年6月30日)



フランス ミヨ橋

大学、研究機関と実業界をブリッジする総合エンジニアリング企業



「Innovating for a Wise Future」 将来の成長に向けて経営資源を 積極投入。成長戦略を通じて、 総付加価値を高めていく。



代表取締役社長
服部 正太

Shota Hattori

PROFILE 1956年東京生まれ。1982年東京大学大学院社会学研究科修士課程を修了。マサチューセッツ工科大学大学院に留学し、1985年に修了。ボストンコンサルティンググループに入社、米国および日本国内にてコンサルタント業務を経験。1987年、構造計画研究所に入社。2002年代表取締役社長に就任。「社会事象の実験とシミュレーションが21世紀前半に大きく発展・貢献する」という夢の実現に向けシャドーワークも実践中。

第58期の業績と取り組みについて お聞かせください。

全般的に良好な市場環境が続き、当社の営業状況も順調に推移した1年間でした。特に建築関連の仕事が好調で、大手住宅メーカー向けの構造設計支援システムや防災関連ビジネスなどがエンジニアリングコンサルティングの増収を牽引しました。またプロダクツサービスも、概ね計画通りの売上を確保しました。

利益面では、エンジニアリングコンサルティングにおける高付加価値案件の増加により収益性が改善しました。私たちが提供する、専門性の上に成り立ったIT活用に対し、お客様の評価が高まっていると感じています。

結果として第58期は、各利益段階において4期連続の拡大を果たすことができました。特に、当期純利益は過去最高となりました。

これらの成果につながった取り組みと並行して、当社はこの1年、将来の成長に向けて経営資源を積極投入し、多くの布石を打ってきました。その新たな動きの中で、特に注力しているのがIoT (Internet of Things=モノのインターネット) 関連ビジネスです。海外のパートナー企業のIoT関連製品・技術を日本に持ち込み、新年度から本格展開していくための体制を整えました。

一口にIoT関連といっても広い領域にわたりますが、当社は建物に的を絞り、ドイツVitracom社の提供する人の動きを可視化して分析を可能にするマーケティング高度化ソリューション「ピープルカウンター」、ドイツNavVis社の提供する次世代屋内デジタル化プラットフォーム「NavVis」、

米国LOCKSTATE社の提供するスマートロックシステム「リモートロック」の3つを効果的に組み合わせながら展開していきます。

その他の動きとしては、ベンチャー企業が持つ新しい技術シーズを探り、当社の技術や経験との組み合わせによる事業の可能性を求め、2つのベンチャーファンド(「けいはんな学研都市ATRベンチャーNVCC投資事業有限責任組合」、「MICイノベーション4号投資事業有限責任組合」)への出資も継続しております。また2016年2月には、東京大学生産技術研究所との社会連携研究部門を設置し、社会における複雑問題の解決に向けた産学共同研究を開始しました。また3月には、日本郵船グループ、株式会社ウェザーニューズと共同で、海運・物流分野の次世代ソリューション提供に向け共同開発を行うべく、Symphony Creative Solutions Pte.Ltd.をシンガポールに設立することで合意し、初期プロダクトについては7月から初期ユーザーへの導入試験を実施中です。今後も継続して初期プロダクトの機能拡充を図りながら導入展開を進めると同時に、新規プロダクトの企画開発を進めていく所存です。

このたびの熊本地震について コメントをお願いします。

2016年4月に発生した熊本地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。当社拠点の熊本構造計画研究所におきましては、幸いにして従業員への人的被害および建物・設備の損壊等を免れました。

当社は、創業翌年の1960年に竣工した熊本城の天守閣

再建計画に携わり、1984年からは熊本県大津町に拠点を構え、長きにわたり同地との地縁を育んできました。その熊本において、今回の地震により史跡・重要文化財に甚大な被害が及んだことを受け、熊本県教育庁「熊本文化財復興支援金」に1億円を寄付させていただきました。

この支援を通じた取り組みが先々花開くことを期待し、引き続き専門的技術エンジニアリングの側面から、熊本の復旧・復興に真摯に関わりたいと考えています。

中長期的な展望と今後の成長戦略を ご説明願います。

足もとでは好環境が続いていますが、中長期的に見ると、エンジニアリングというのは国内市場だけでは停滞していくと思います。特に建設業関連の国内需要は、2020年のオリンピック開催以降は減少していくでしょう。私たちは、日本で培ったエンジニアリング技術を活かし、海外で事業展開していかなければ、将来の成長は見込めません。

そのため当社は近年、人材の海外採用を進めており、グローバルな活躍に向けた育成に注力しています。また2015年7月には、ASEAN地域のマーケティング・リサーチ拠点として、シンガポールに現地法人を設立しました。

一方、構造物から自然・環境へ、さらに社会・企業・コミュニティへと、当社の事業領域を拡大していく取り組みも、中長期的な成長に欠かせません。さまざまな機会を捉え、多くのパートナー企業との連携を深め、ネットワークを拡げながら、成功件数を積み上げていきます。

中長期的な成長を実現していく上で、当社が重視する経営指標は、営業利益に人件費とFRINGE BENEFIT(給与以外に従業員が受け取る利益)を加えた「総付加価値」です。「総付加価値」を重視しているのは、当社の付加価値の源泉が人材であることから、今後もより良い人材を確保し育成していくことこそが、当社を持続的に発展させていくために必要だと考えているからです。第58期の総付加価値額は、過去最高の66.4億円となり、前事業年度と比較して3億4千万円増加しました。今後も年間5%程度の付加価値成長を目標とします。

この総付加価値を高めるための重点戦略として、当社は「提供するサービスや製品の品質確保」「人材の育成」「新規事業開発投資と海外へのDesign & Engineering展開」「知財戦略」の4つを推進しています。

サービス・製品の品質確保は、従来から当社が高いこだわりを持っている部分ですが、各お客様に合わせて品質を追求する、より高いレベルでの期待に応えていきます。人材育成については、前述の海外採用や従業員満足の向上も含め、価値創出の源泉となる人物育成に全社視点で取り組みます。そして、新規事業と海外展開への積極的な投資とネットワーク構築を進めつつ、顧客業界全体とその先の消費者を価値

提供の対象として捉え、当社が持つ知的財産を広く社会への貢献につなげていきます。

第59期の見通しはいかがですか？ また株主の皆様への利益還元について お聞かせください。

第59期の営業状況は、引き続き建築関連を中心に好調が予想され、また期首の繰越受注高も、第58期を5億円上回る51億円を確保していることから、売上高と各利益においてそれぞれ拡大を見込んでいます。2016年8月には福岡支社を設置し、IoT関連のターゲットを含むテストマーケティングを行っていきます。

株主の皆様への利益還元については、当社株式を中長期で保有していただけるよう、安定配当の維持を基本に、業績拡大に伴う連続増配を目指しています。今回の期末配当については、1株当たり40円を実施し、中間配当の15円と合わせて、年間配当額を55円(前期比15円増配)といたしました。今後は、財務体質の改善と適切な内部留保を行いつつ、収益や事業投資の状況を総合的に勘案しながら、特に中長期保有の株主の皆様への利益還元を重視し、第59期第1四半期より四半期配当制度を導入します。

私たちは、ソート(Thought)として掲げる「Innovating for a Wise Future」のもと、工学知をベースにした有益な技術を社会に普及させ、より賢慮にみちた未来社会の創出を目指します。既存市場の中ではなく、新たな市場を生み出すところでのチャレンジですので、先行き不透明な部分もありますが、短期的な利にこだわることなく、緊張感を持って着実に前進してまいります。株主の皆様には、ソートの実現に向けて今後とも一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



CONTENTS

トップインタビュー	1
KKE NEWS	3
導入事例のご紹介	5
シンガポール駐在員レポート	5
Innovating for a Wise Future	7
業績ハイライト	9
財務諸表	10
会社情報/株式情報	裏表紙

2015年

7月 | シンガポール現地法人 KKE SINGAPORE PTE. LTD. 設立

シンガポールはもとより成長著しい ASEAN 諸国において、エンジニアリング・コンサルティングで解決できる潜在的なニーズや将来像を明らかにする、マーケティング・リサーチの拠点として設立いたしました。今後はKKE SINGAPOREを通し、ASEAN 諸国に対して日本で展開し培った「工学知」を積極的に発信し、「次世代の社会構築・制度設計」の支援・促進を目指してまいります。

▶ P5・「シンガポール駐在員レポート」もご参照ください。



社内フォーラム2015



今年度はウェスティンホテル東京にて、一橋大学名誉教授野中郁次郎氏による講演「知的機動力経営」を中心に開催いたしました。

フジサンケイ ビジネスアイ主催 「第29回先端技術大賞 特別賞」を受賞

東北大学 西山大樹准教授、NTT ドコモ 岡部裕氏との共著論文で、フジサンケイ ビジネスアイ主催「第29回 独創性を拓く 先端技術大賞」にて企業・産学部門の「特別賞」を受賞しました。



9月 | 第57期定期株主総会 2015年プロジェクト表彰式

当社は毎年社内の優秀プロジェクトを表彰し、社内認知を高めるとともに、全社でその経験知を共有する取組を行っております。



10月 | 内定式 次世代屋内デジタル化プラットフォームの NavVis社と日本市場展開で提携

ドイツNavVis社の提供する次世代屋内デジタル化プラットフォームを日本市場にて展開するための業務提携を行いました。当社がこれまで取り組んできたビジネス分野への応用を含め、Wi-Fiと接続して制御可能なスマートロックシステム「リモートロック(米LOCKSTATE社)」や、人の動きを可視化して分析を可能にするマーケティング高度化ソリューション「ピープルカウンター(独Vitracom社)」など、当社のサービスと複合的に組み合わせ、注目を集めているIoT(Internet of Things)の分野などへサービスを開始しております。

▶ P7・「Innovating for a Wise Future」もご参照ください。



KKE Vision 2015開催

KKE Visionは当社と大学・教育機関、ビジネスパートナーが「工学知」を共有する場として15年に渡り継続して開催しているマーケティングイベントです。2015年はヒルトン東京にて、約1,000名にご来場いただきました。基調講演には、東京大学生産技術研究所教授であられる合原一幸氏をお招きし、「最先端数理モデル学に基づく数理知の統合とその社会への応用」と題し、ご講演いただきました。

2016年

1月 | 第33回服部賞

服部賞は、産学官連携や社会貢献活動で活躍した所員を毎年表彰しています。第33回は「長周期地震動による超高層建物での家具の地震時挙動と室内被害把握」についての研究に尽力した正月俊行に贈られました。



11月 | KKE Vision 2015 OSAKA開催

大阪でもKKE Visionを開催いたしました。コングレコンベンションセンターにて、約600名にご来場いただきました。基調講演では大阪大学大学院教授であられる石黒浩氏をお招きし、「人間型ロボットと未来社会」と題し、ご講演いただきました。



2月 | 東京大学生産技術研究所と 社会連携研究部門を設置

当社と国立大学法人東京大学生産技術研究所とで、社会連携研究部門を新たに設置いたしました。今後は共同で、未来の複雑社会システムの諸問題を解決するための基盤となる数理工学の基礎研究のほか、中長期の課題を視野に入れた応用分野のテーマ掘り起こしに取り組む計画です。

3月 | 日本郵船グループ、 ウェザーニューズと新会社設立に合意

日本郵船グループ、株式会社ウェザーニューズと共同で、海運・物流分野の次世代ソリューション提供に向け共同開発を行うべく、Symphony Creative Solutions Pte.Ltd.をシンガポールに設立することに合意しました。

4月 | 入社式・永年勤続者表彰式

新たに25名(うち外国籍を保有5名)の仲間を迎えることができました。また、勤続20年が14名、勤続30年が8名の合計22名を永年勤続で表彰しました。



5月 | 快適空間を目指すIoTセミナー開催



経団連会館・経団連ホールにて、当社がこれまで培ってきた住宅、構造物における工学知を、注目されているIoT(Internet of Things)の分野において今後展開するためにセミナーを開催しました。

▶ P7・「Innovating for a Wise Future」もご参照ください。

6月 | 熊本県教育庁 「熊本文化財復興支援金」寄付

当社は1984年から熊本県大津町に事務所を構えており、ソート(Thought)「Innovating for a Wise Future」に込めた思いとも一致することから、2016年4月に発生した熊本地震に際して、熊本県教育庁「熊本文化財復興支援金」に1億円を寄付いたしました。





南極でニュートリノを捕らえる国際プロジェクトに参画 KKEのサポートにより設計したアンテナで、 世界初の観測を目指します！

～解析コンサルティングおよび電磁界解析ソフト「XFDTD」活用事例～

宇宙から刻々と私たちのもとに降り注ぐニュートリノ。そのニュートリノの観測を行う国際プロジェクトが、今、南極で進行中なのをご存じですか？そこに我が国から唯一参加する千葉大学大学院理学研究科の間瀬圭一助教が目指すのは、「最高エネルギー宇宙線由来のニュートリノ」を見つけること。その実験に欠かせないアンテナの開発を、KKEが支援しています。間瀬圭一助教に、研究とKKEとの関わりについてお話を伺いました。

間瀬 圭一 助教

PROFILE 千葉大学
大学院理学研究科 助教
ハドロン宇宙国際研究センター
ニュートリノ天文学部門



三次元電磁界シミュレータ XFDTD

XFDTDは、1994年にリリースされて以来、20年以上にわたり世界の電磁界解析に関わる研究者、技術者に提供され続けています。進化し続ける計算アルゴリズムに加え、研究者が要求する精度・速度・安定性に対応できる豊富な機能と柔軟なカスタマイズ性により、その歴史と実績に支えられた信頼は、多くのユーザに支持されています。当社では、開発・販売元であるRemcom社(米国PA州Remcom, Inc.)の国内販売代理店として、XFDTD製品群のパッケージ販売と合わせて各種サービスを提供しています。

「ニュートリノ」と聞くと、
ノーベル物理学賞が思い浮かびます。

2015年、東大の梶田隆章先生がスーパーカミオカンデ等も使った「ニュートリノ振動実験」で、ノーベル賞を受賞されました。前身のカミオカンデでは、小柴昌俊先生が宇宙から飛来したニュートリノを観測することに初めて成功し、やはりノーベル賞を受賞されています。私たちも、宇宙からやってくるニュートリノを捕らえたいと考えています。私たちが狙っているのは、ニュートリノの中でも、従来の施設では観測が困難な「最高エネルギー宇宙線由来のニュートリノ」です。

そのニュートリノ観測の国際プロジェクトが
南極で始まり、そこに間瀬さんの所属する
研究室も参加されています。
取り組みの概要を教えてください。

10年以上前にスタートしたプロジェクトは「IceCubeコラボレーション」と命名され、現在12カ国、48機関、計300名ほどの

科学者が参画しています。IceCubeの特徴は、なんといってもそのスケールです。媒質の容積が1km³、スーパーカミオカンデの約2万倍に達します。我々千葉大学のグループは、IceCubeで10¹⁵eVのニュートリノの観測に成功し、2012年の国際会議で発表しました。理論的に予言されていた高エネルギーニュートリノの実在を示したのは、世界初のことです。ノーベル賞級の成果といいいいでしょう。しかし、我々が見つけたいのは、さらにエネルギーの高い粒子です。何としても観測したいと思っています。

高エネルギーニュートリノの観測は、
どういった点が難しいのでしょうか？

他のニュートリノに比べ、地球に飛んでくる量が非常に少ないからです。IceCubeのサイズは1km³もあるのですが、私たちの狙う高エネルギー粒子がこの装置に届くのは、確率的にせいぜい1年に1個です。それを確実に捕らえるというのは困難な上、観測できるまでに時間もかかります。この制約を解決するために、5年ほど前からいくつかの研究機関で協力して進めているのが、IceCubeの次世代検出設備「ARA(Askaryan Radio Array)」の建設です。ARAでは検出装置の実効容積がIceCubeの10倍になりました。狙う粒子が装置にヒットする確率は、10倍に高まります。これだけ巨大な設備になると、コストの問題は避けて通れません。KKEに今回解析をお願いしたアンテナの形状検討も、もともとは建設コスト削減の必要性が始まりでした。

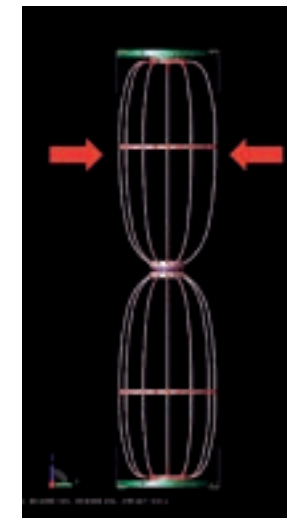


ARA建設時の掘削風景(引用: ARA公式サイト)

アンテナ設置コストを
10分の1にするためにアンテナを
小型化する必要があったのですね。

ARA建設でも、掘削コストが大きなネックになりました。そこ

で浮上したのが、「開ける穴の直径を小さくする」というアイデアでした。そうすると、必然的にアンテナも穴に合わせて細くしなければなりません。そのアンテナの最適形状などを導き出すための解析を、KKEに全面的にやっていただきました。プロジェクトメンバー内で穴の直径を小さくしようという方針が決まり、KKEにアンテナの小型化解析を依頼したのが、2016年1月でした。南極はその寒さのために夏場しか屋外作業ができないため、10月には出来上がった製品を現地に送りたと思っていました。逆算すると、3月までに形状デザインが出来上がっていないと、という切迫したスケジュールだったのでお願いした部分も大きかったのですが、振り返ると、やはりその道のプロであるKKEに頼んでよかったと思っています。「アンテナの小型化」といっても、単純に同じ縮尺で小さくしても、性能は保てません。そのあたりのノウハウは期待通りでした。1週間に1度進捗状況に関するレポートをいただいたので、「今どうなっているのか」を正確に知ることができ、疑問点があれば具体的な質問もできました。安心して任せられた、というのが率直な感想です。



最適化前のアンテナ形状イメージ
アンテナ直径(赤い矢印部分)を段階的に小さくしつつ、アンテナ長、エレメント直径なども検討しながら形状を最適化した。

今後の研究の展望を
お聞かせください。

南極での成果などを通じて、本センターの世界での存在感も徐々に高まってきていると感じています。できるだけ早く、最高エネルギー宇宙線由来のニュートリノを発見して、さらに世界をあとと言わせたいですね。1つでもこのニュートリノが見つければ、そこからまた新たな研究の扉が開くのではないのでしょうか。

シンガポール 駐在員レポート

KKE SINGAPORE PTE.LTD. 出向
金谷尚輝

2015年7月に当社のシンガポール現地法人としてKKE SINGAPORE PTE.LTD.が設立されました。私は現在、シンガポールを含む東南アジアをターゲットにしたマーケティング&リサーチ活動を行うため出向しています。国によってそれぞれ社会の課題が大きく異なり、当然求められる解決手段や価値も異なってきますので、その中で当社の技術や知識がお客様の考えと交わり、価値



を生み出せる機会を探す毎日です。現地政府機関、大学、民間企業、そして現地へ進出している日系企業の方々と面談し、その国の社会事情に沿った、現地ならではのニーズと構造計画研究所の技術をすりあわせて、新しい技術の活用方法を提案することを行っています。また、事務所のあるシンガポールは海運・物流分野の集積拠点になっています。この分野に向けた次世代ITソリューションの共同開発に向けた取り組みを遂行するため、2016年3月に日本郵船株式会社、株式会社MTI、株式会社NYK Business Systems、株式会社ウエザーニューズと5社共同でシンガポールに設立した新会社Symphony Creative Solutions Pte. Ltdの事業運営にも関わっています。

シンガポールも構造計画研究所もそれぞれ50年と少しの歴史があります。国としては新しい国と言えるかもしれませんが、奇跡的なスピードで発展してきたシンガポールの基本となっているのは、人の知

識をベースに成長するという方針だと思います。また、どこかに属することなく独立して歩もうと努めて来た歴史もあります。この点は特に構造計画研究所の歴史と共通性を感じるところです。また、こちらに暮らしてみても実感するのは、スピード感のある国家運営がこの国を育ててきた重要な要素だと思い、見習っていきたく思う点です。

同じアジアとはいえず事もそうですが、生活の違いにも最初が驚くことが多かったです。国土の狭いシンガポールでは農業、漁業はほとんど営まれていません。その中でも地産地消できる数少ない食材、鶏肉を使った料理は食べ歩き好きなシンガポール人にもとても人気があります。今回のレポートの目玉になるかと、ミシュラン初のシンガポール版で話題になった一つ星獲得のホーカーセンター(屋台が集まった食堂)の行列にチャレンジしてみました。しかし、1時間ほど並びましたがあと10人というところで売り切れ閉店になってしまし

た。皆さん本当に美味しい食事が大好きですね。KKE Singaporeを通じて、日本で展開し培った「工学知」を東南アジアへ積極的に発信し、「次世代の社会構築・制度設計」の支援・促進を目指すことをマーケティング&リサーチ活動の基礎的な考え方とし、海外事業拡大に早く貢献したいと考えています。また、アジア地域から構造計画研究所に入社した外国籍所属の活躍の場としても成長して行きたいと思っています。



これが屋台で初のミシュラン1つ星を獲得した「香港油雞飯」
「おいしいので写真だけ撮らせてもらいました」



いつも賑わっているホーカーセンター

Innovating for a Wise Future

at 経団連会館

快適空間を目指す KKEのIoT (Internet of Things)

当社は社会とともに目指す未来像・方向性としてソート(Thought)「Innovating for a Wise Future」を掲げております。ソートには「工学知」をベースにした有益な技術を社会に普及させることで、より賢慮にみちた未来社会を創出していきたいという思いをこめております。

当社の掲げたソートを実現する取り組みの一つとして、これまで当社が培ってきた様々な構築物における技術を複合的に組み合わせて、建物の快適性・利便性を高めるためのIoT(Internet of Things、モノのインターネット)分野における取り組みをご紹介します。

今後も利用者の新しい社会創造の可能性を住宅、構築物などを起点に進めてまいります。



空間を3Dマッピング

「NavVis」

機能

- 一眼カメラ品質の写真と点群データ取得
- 設備・展示物の詳細や履歴・SNS等と連携でき、対話アプリケーションが可能
- 屋内での経路案内機能



どこからでも鍵をコントロール

「リモートロック」

機能

- 既存のWi-Fi ルーターに接続可能
- ユーザの追加削除とドア開閉が遠隔操作で可能
- アクセス履歴をリアルタイムで見ることができ、メールによる通知も受信可能
- スマホアプリのインストールは一切不要
- 簡単なテンキー操作



人の動きを徹底分析

「ピープルカウンター」

機能

- 市販のネットワークカメラ、PCとの接続が可能
- 機器設定、調査作業の遠隔操作が可能
- 混雑した状況化でも正確なカウントが可能
- 双方向の同時カウントが可能



2016年5月10日に「快適空間を目指すIoTセミナー」を開催しました

空間におけるIoT技術がどのように社会、コミュニケーションに寄与していくのか、その可能性についてご紹介させていただきました。

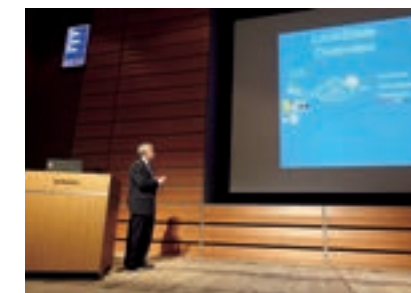
「リモートロック」の実演



Karlsruhe University of Applied Science
Norbert Link教授 (Vitracom AG R&D責任者)



LOCKSTATE社 Nolan Mondrow氏



NavVis社 Sebastian Hilsenbeck氏



展示ブース



2016年8月19日に福岡支社を開設しました

当社は、2016年8月19日より新たに福岡支社を開設いたしました。1991年より弊社とも永くゆかりがあり、またアジア圏でのビジネスの中心地として活発な福岡にて、九州地区のマーケティング活動の発展および新規ビジネスの創出を目的としております。本拠点は、今後大きな需要が期待されるIoTビジネスの発信地としての役割も担います。

11月29日には当社が15年に渡り継続しているブランディングイベントKKE Visionを、福岡でも初めて開催する予定です。今後も地域に根差し共に発展する活動を続けてまいります。

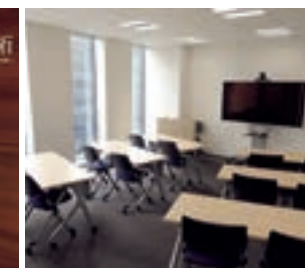
博多駅直結のJRP博多ビル内に開所



オフィス内ドアは当社サービスの「リモートロック」を採用予定



オフィス内セミナールーム



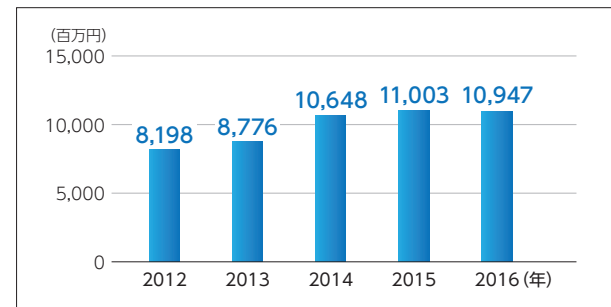
8月19日にANAクラウンプラザホテル福岡にて開所パーティーを開催



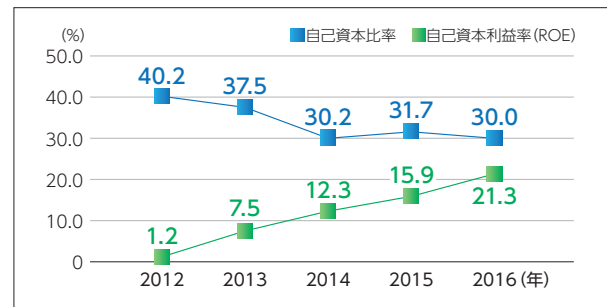
会場では当社のIoT関連のソリューションを中心にご紹介



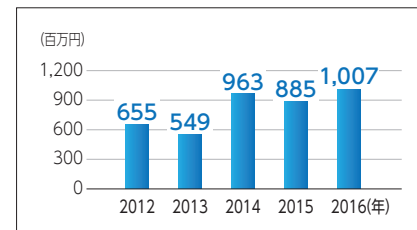
売上高



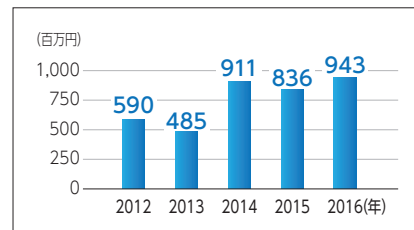
自己資本比率/自己資本利益率(ROE)



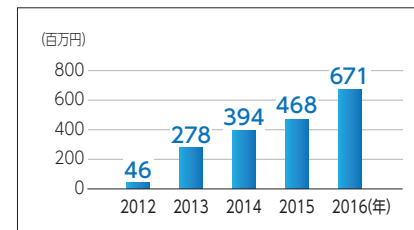
営業利益



経常利益



当期純利益



貸借対照表のPOINT

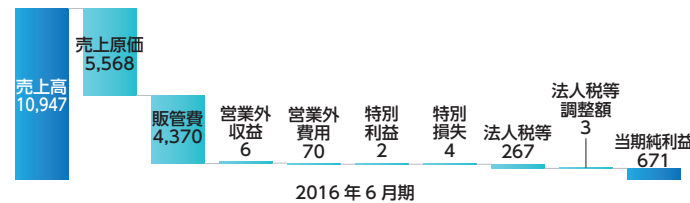
(単位: 百万円)

2015年6月期		2016年6月期	
流動資産	3,338	流動資産	3,532
流動負債	4,848	流動負債	3,713
固定資産	6,614	固定負債	3,607
固定負債	1,948	純資産	3,139
純資産	3,156		

- 総資産は、前事業年度末に比べて5.1%増加し104億60百万円となりました。
- 負債合計は、前事業年度末に比べて7.7%増加し、73億21百万円となりました。
- 純資産合計は、前事業年度末に比べて0.5%減少し、31億39百万円となりました。これは、主として繰越利益剰余金が4億19百万円増加する一方、自己株式が5億49百万円、その他資本剰余金が1億45百万円それぞれ増加したことによります。

損益計算書のPOINT

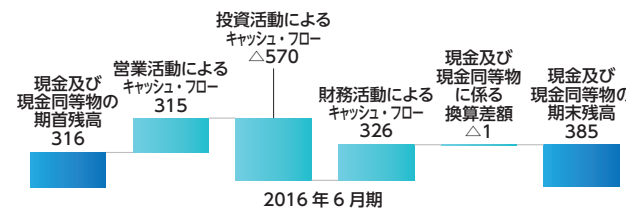
(単位: 百万円)



- 売上高109億47百万円、営業利益は10億7百万円、経常利益は9億43百万円、当期純利益は6億71百万円となりました。当社は経営の透明性を確保し高度化するために、より保守的に売上高を計上しておりますが、当事業年度末における受注残高は前事業年度を上回る51億80百万円(前事業年度末は46億15百万円)を確保しております。

キャッシュ・フロー計算書のPOINT

(単位: 百万円)



- 営業活動の結果得られた資金は、税引前当期純利益9億41百万円、減価償却費2億33百万円等により、3億15百万円となりました。
- 投資活動の結果使用した資金は、主に有形固定資産の取得による支出1億15百万円等により、5億70百万円となりました。
- 財務活動の結果得られた資金は、短期借入金の減少額9億50百万円等により、3億26百万円となりました。

要約貸借対照表

(単位: 千円)

	2015年6月期 (2015年6月30日現在)	2016年6月期 (2016年6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,338,257	3,532,532
現金及び預金	316,021	385,747
受取手形	146,007	34,285
売掛金	1,608,906	1,367,778
仕掛品	432,928	990,267
その他	834,394	754,453
固定資産	6,614,920	6,927,925
有形固定資産	5,065,043	5,077,858
無形固定資産	323,184	313,789
投資その他の資産	1,226,692	1,536,277
資産合計	9,953,178	10,460,458
(負債の部)		
流動負債	4,848,050	3,713,412
買掛金	315,984	312,861
短期借入金	1,700,000	750,000
1年内返済予定の長期借入金	120,000	443,600
その他	2,712,065	2,206,950
固定負債	1,948,995	3,607,843
長期借入金	172,500	1,740,617
リース債務	38,245	39,933
退職給付引当金	1,666,990	1,755,573
役員退職慰労引当金	40,000	40,000
資産除去債務	31,258	31,719
負債合計	6,797,045	7,321,255
(純資産の部)		
株主資本	3,120,190	3,134,300
資本金	1,010,200	1,010,200
資本剰余金	1,134,568	1,279,603
利益剰余金	2,660,360	3,078,808
自己株式	△1,684,937	△2,234,311
評価・換算差額等	35,942	4,902
純資産合計	3,156,133	3,139,202
負債純資産合計	9,953,178	10,460,458

要約損益計算書

(単位: 千円)

	2015年6月期 (2014年7月1日から 2015年6月30日まで)	2016年6月期 (2015年7月1日から 2016年6月30日まで)
売上高	11,003,229	10,947,203
売上原価	6,028,631	5,568,868
売上総利益	4,974,598	5,378,335
販売費及び一般管理費	4,089,237	4,370,646
営業利益	885,360	1,007,689
営業外収益	18,743	6,437
営業外費用	67,866	70,969
経常利益	836,238	943,157
特別利益	—	2,810
特別損失	84	4,371
税引前当期純利益	836,153	941,596
法人税、住民税及び事業税	329,342	267,050
法人税等調整額	38,148	3,016
当期純利益	468,663	671,529

要約キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	2015年6月期 (2014年7月1日から 2015年6月30日まで)	2016年6月期 (2015年7月1日から 2016年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	700,045	315,246
投資活動によるキャッシュ・フロー	△200,198	△570,567
財務活動によるキャッシュ・フロー	△448,256	326,440
現金及び現金同等物に係る換算差額	373	△1,393
現金及び現金同等物の増加・減少額	51,964	69,726
現金及び現金同等物の期首残高	264,057	316,021
現金及び現金同等物の期末残高	316,021	385,747

株主資本等変動計算書

(単位: 千円)

2016年6月期 (2015年7月1日から 2016年6月30日まで)	株主資本													
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価 差額金	評価・換算 差額等 合計	純資産 合計	
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	固定資産 圧縮積立金	特別償却 準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金						利益 剰余金 合計
2015年7月1日残高	1,010,200	252,550	882,018	1,134,568	32,187	1,220	100,000	2,526,952	2,660,360	△1,684,937	3,120,190	35,942	35,942	3,156,133
会計方針の変更を反映した 当期首残高	1,010,200	252,550	882,018	1,134,568	32,187	1,220	100,000	2,526,952	2,660,360	△1,684,937	3,120,190	35,942	35,942	3,156,133
事業年度中の変動額														
剰余金の配当								△253,080	△253,080		△253,080			△253,080
当期純利益								671,529	671,529		671,529			671,529
固定資産圧縮積立金の取崩					△1,316			1,316	—		—			—
税率変更に伴う固定資産 圧縮積立金の変動額					776			△776	—		—			—
特別償却準備金の取崩						△404		404	—		—			—
税率変更に伴う 特別償却準備金の変動額						18		△18	—		—			—
自己株式の取得										△1,204,900	△1,204,900			△1,204,900
自己株式の処分				145,035	145,035					655,526	800,561			800,561
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)												△31,040	△31,040	△31,040
事業年度中の変動額合計	—	—	145,035	145,035	△540	△386	—	419,375	418,448	△549,373	14,109	△31,040	△31,040	△16,930
2016年6月30日残高	1,010,200	252,550	1,027,053	1,279,603	31,646	834	100,000	2,946,327	3,078,808	△2,234,311	3,134,300	4,902	4,902	3,139,202



会社概要 (2016年6月30日現在)

社名 株式会社構造計画研究所
 英文商号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
 設立年月日 1959年5月6日
 資本金 1,010百万円
 従業員数 564名
 決算期 6月
 上場市場 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
 証券コード 4748
 事業内容 エンジニアリングコンサルティング
 プロダクツサービス

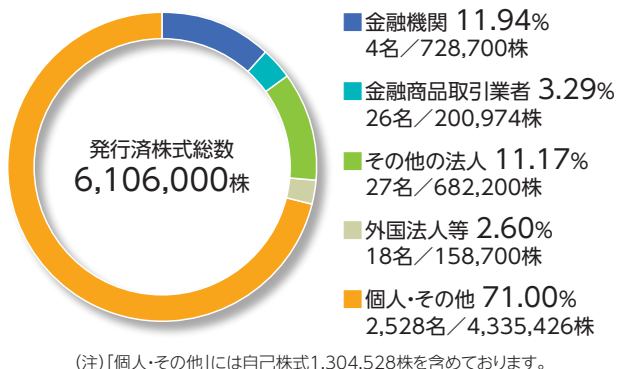
事業所所在地

本所 〒164-0012
 東京都中野区本町4-38-13
 日本ホルスタイン会館内
 本所新館 〒164-0011
 東京都中野区中央4-5-3
 中野イノベーション
 オフィス 〒164-0001
 東京都中野区中野4-10-2
 中野セントラルパーク サウス 2F
 大阪支社 〒541-0047
 大阪府大阪市中央区淡路町3-6-3
 御堂筋MTRビル5F
 名古屋支社 〒460-0008
 愛知県名古屋市中区栄1-3-3
 朝日会館11F
 熊本構造計画
 研究所 〒869-1235
 熊本県菊池郡大津町室1315
 福岡支社 〒812-0012
 福岡県福岡市博多区博多駅中央街8番1号
 JRJP博多ビル8F
 上海駐在員
 事務所 〒200120
 中華人民共和国上海市浦東新区世紀大道
 100号 上海環球金融中心15F
 KKE SINGAPORE
 PTE. LTD. 〒018981
 Level 11, Marina Bay Financial Centre
 Tower 1, 8 Marina Blvd, Singapore

株式の状況 (2016年6月30日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
 発行済株式総数 6,106,000株
 株主数 2,603名

所有者別分布状況 (2016年6月30日現在)



株主メモ

事業年度 7月1日～翌年6月30日
 基準日 6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目
 10番11号
 TEL: 0120-232-711
 (通話料無料)
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.kke.co.jp>
 (ただし、電子公告によることが
 できない事故、その他のやむを得
 ない事由が生じたときは、日本経
 済新聞に公告いたします。)

IR情報



<http://www.kke.co.jp/ir/>



環境に配慮した「ベジタブルインキ」
 を使用しています。



見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。